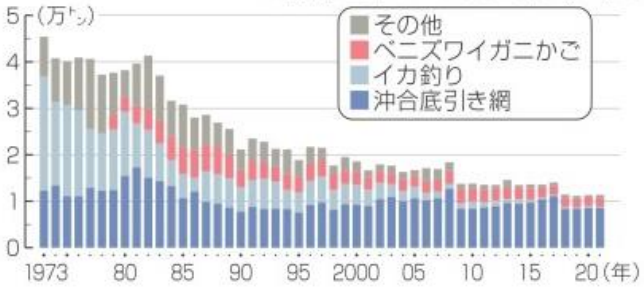
■兵庫県（但馬地域）の漁船漁業漁獲量

※農林水産省のデータを基に兵庫県が作成



■兵庫の日本海側水産業

漁獲量 半世紀で4分の1に

日本海と瀬戸内海に面する兵庫県は古くから水産業が盛んだが、海洋環境の変化などで約50年前からの漁獲量は大きく減っている。

農林水産省の統計によると、但馬地域の日本海側では1980年前後に約4万トンあった漁獲量は、90年代後半に[A]万トンを割り込むまで減少。近年は約[B]万トンで推移する。かつては約半数を占めていた沖合[C]漁の漁獲量がズワイガニやカレイなど沖合[D]漁による漁獲量はほぼ同規模を維持するが、全国シェアトップを争ってきたハタハタが激減し、サワラが増加するなど、魚種の変化が見られる。

魚種に変化 イカ激減、サワラ増

サワラは、90年代は日本海でほとんど取れなかったが、2000年代に入ると急増した。海水温の上昇で、東シナ海から[E]に回遊しやすくなった可能性が指摘されている。

一方、瀬戸内海側の漁獲量は90年代半ばまで年間7万トン前後で推移していたが、00年代に4万トン前後と半減。さらにこの10年で3万トンを割り込む年も出ている。多い年で約半数を占めていたイカナゴが激減した。

イカナゴの不漁原因とされる海の栄養不足に対しては、県内では海底の堆積物をかき混ぜて、窒素やリンなどの栄養塩を海中に放出する「海底耕耘（こううん）」の取り組みが進められている。

全国的にも水温上昇の漁業や養殖業への影響が指摘されており、資源の減少などもあって、合計した漁獲・生産量は84年には182万トンだったが、20年には423万トンまで減少した。

水産庁は水温上昇などの気候変動対策として、資源管理の取り組みや水温上昇に適した品種改良、養殖業の強化などを挙げる。兵庫県も30年に向けて、漁場の整備や人材育成などを進める。（石沢菜々子）

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

1　空欄ＡＢに入る数字を、グラフから読み取って書きましょう。

A

B

2　空欄ＣＤに入る言葉を、グラフから抜き出して書きましょう。

C

D

3　空欄Eに入る言葉を、本文中から抜き出して書きましょう。

4　漁獲量減少の主な原因は何ですか。本文中から漢字４字で抜き出しましょう。

ＮＩＥワークシート小高～高校

NIEワークシートのこたえ（2023年12月4日公開）

◆ワークシート「漁獲量4分の１に(理科 SDGs10)」
2023.12.4付　朝刊　３面　解答

１Ａ ２　　Ｂ １

２Ｃ イカ釣り　　Ｄ 底引き網

３Ｅ 日本海

４ 水温上昇